

第1回雑木林の達人養成講座／10月14日(土) 「雑木林の達人入門」

近藤 真史

雑木林の達人養成講座は、全5回の座学やフィールドワークを通して雑木林管理の達人を目指すもので、天白生涯学習センターが主催し、当くらぶが運営を支援しています。

* * *

第1回は、当くらぶではすっかりお馴染みの川尻先生を講師に招き、雑木林の達人入門と題した講座が行われました。当日の参加者は、一般参加者20名と当くらぶ会員10名が集まり、午前中の座学が行われた相生小学校の会議室はほぼ満席状態。ここでは、ヨーロッパやアメリカなどワールドワイドな森林の話も繰り広げられ、流暢な川尻

節にみなさん聞き入っていました。また、当くらぶ会員の小池さんからは、名古屋市の雑木林の状況について解説が行われました。



▲名古屋市の雑木林の状況を解説する小池さん

午後は、実際に相生山緑地に出向き、



▲カシナガに冒されたコナラの前で対処方法などを解説する川尻先生

林内のいろいろな植物に触れながら、それらの特性や名前の由来などを教わりました。また、最近被害が広がりつつあるカシナガ（カシノナガキクイムシ）に冒されたコナラのところでは、その対処方法などの話を聞くことができ、一般参加者のみならずくらぶの会員も興味津々の一日でした。

第4回雑木林塾／11月3日(金・祝) 「雑木林の昆虫たち」

阿部 龍雄

11月3日「第4回 雑木林の昆虫たち」として講師に大角守（昆虫研究家）さんを迎え、雑木林塾が開かれました。



▲午前中の座学風景

午前中は山根コミセンで天白区及び相生山緑地に見られる蝶類を中心に話していただきました。大角さんは昭和47年から約35年天白区で蝶の観察され

ていますが、天白区で見られなくなった（絶滅した？）蝶は、ヒメヒカゲ（島田湿地で昭和52年が最後の確認）、ミドリシジミ（天白溪で昭和60年ごろを最後に）で、さらにツマグロキチョウも最近確認できていないとのこと。反対に以前見られなかったのに近年普通に見られるようになった蝶は、ツマグロヒョウモンやナガサキアゲハ、そして最近ではムラサキツバメシジミ等だそうです。環境の変化が蝶たちにもおよんでいることを知りました。

午後は相生山緑地での観察です。11月上旬という時期のため、多くの昆虫は見つけることが出来ませんでした。トンボ池のエノキの葉にゴマダラチョウの幼虫を確認できたのは収穫でした。



▲運良く出会えたゴマダラチョウの幼虫

また参加者の中から、6月ごろ炭焼き釜の付近でウラゴマダラシジミが見られるとの報告があり、その付近のイボタノキに卵を捜したりしました。残念ながら卵の発見は出来ませんでした。相生山緑地の変化が実感される有意義な一日でした。

今回は蝶の話題が中心でしたが、トンボや甲虫等はどのようになっているのか気になりました。今後はそのような話が聞けるといいと思っています。

「菅田収穫祭に参加」

中島 巳治男

11月25日（土）10時より12時まで山根公園にて菅田収穫祭に参加、地域住民との親睦もかねて竹工作を実施しました。内容は、野菜鉄砲、空気鉄砲で

す。当初、参加予定は50名くらいと踏んでいましたが、実際は80名弱の参加で材料切れの心配をするほど大忙しでした。

子供たち、おじさん、おばさんも大喜びでノコギリ、ナイフ、ナタなど使い、各自オリジナルの鉄砲をつくって

いました。

終了後は、新米のオニギリとトン汁を頂き参加者一同大満足でした。ケガも無く無事終了しました。森さん、熊岡さん、中島（ひ）さん協力ありがとうございました。